

高等学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

目 次

「自ら課題解決を図ることのできる学習活動への支援の工夫」

体育副題：学び方を重視した選択制授業

保健副題：実践力を身に付けるための課題学習

I 研究主題と研究の方針

1 主題設定の理由	2
2 研究の方針	2
3 研究の経過	3
4 研究の構想図	3

II 研究の内容

〔体 育〕

1 先行研究からの課題把握	4
2 仮説の設定	5
3 選択制授業における単元の学習活動例	6
4 実証授業の指導事例	10
5 実証授業の結果と考察	11
6 研究の成果と今後の課題	12

〔保 健〕

1 保健における課題学習に関する実態調査	14
2 仮説の設定	15
3 研究の視点	16
4 課題学習における単元計画	18
5 実証授業の指導事例	19
6 実証授業の結果と考察	22
7 研究の成果と今後の課題	24

研究主題：「自ら課題解決を図ることのできる学習活動への支援の工夫」

体育副題：学び方を重視した選択制授業

保健副題：実践力を身に付けるための課題学習

I 研究主題と研究の方針

1 主題設定の理由

国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会の到来など、社会の状況が大きく変化している。21世紀を生きる人材を育てるために、我が国におけるこれからの学校教育の在り方として、「ゆとり」の中で自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の育成が求められている。

このような背景を受け、学習指導要領が改訂され、平成12年度より新学習指導要領の移行措置期間に入っている。また、新学習指導要領の保健体育科においては、心と体をより一体としてとらえ、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進を図るための実践力の育成と体力の向上が基本的なねらいとなり、一層の授業改善が求められている。

平成12年度高等学校教育研究員保健体育部会は、この改訂の趣旨を受け、「学び方」と「実践力」を育成するため、生徒の学習活動に対する支援の在り方について研究を進めることとした。研究の視点は、生徒が自ら課題を発見し、解決できるようにするための教師のかかわり方を本研究の中心におき、研究主題を「自ら課題解決を図ることのできる学習活動への支援の工夫」とした。

2 研究の方針

《 体 育 》

本研究では、変化する現代社会において、生徒が生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を身に付けることが重要であると考えた。そのために、体育理論の学習内容を運動の実践を通して、生徒が主体的に学び、課題解決する選択制授業の充実を目指すこととした。

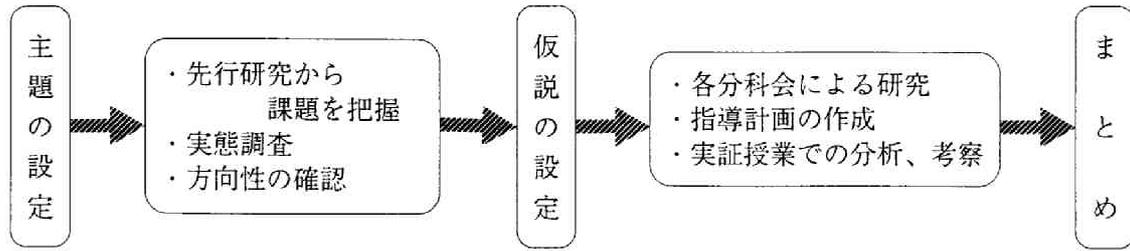
そこで、選択制授業の学習を通じて、体育理論との関連を図りながら、生徒が学習計画を立案し、グループや自己の能力に応じた課題解決を図る練習やゲームを行い、新たな課題を見いだすなどの学び方に視点をあて、「学び方を学ぶ」過程への支援の在り方について研究を進めることとした。

《 保 健 》

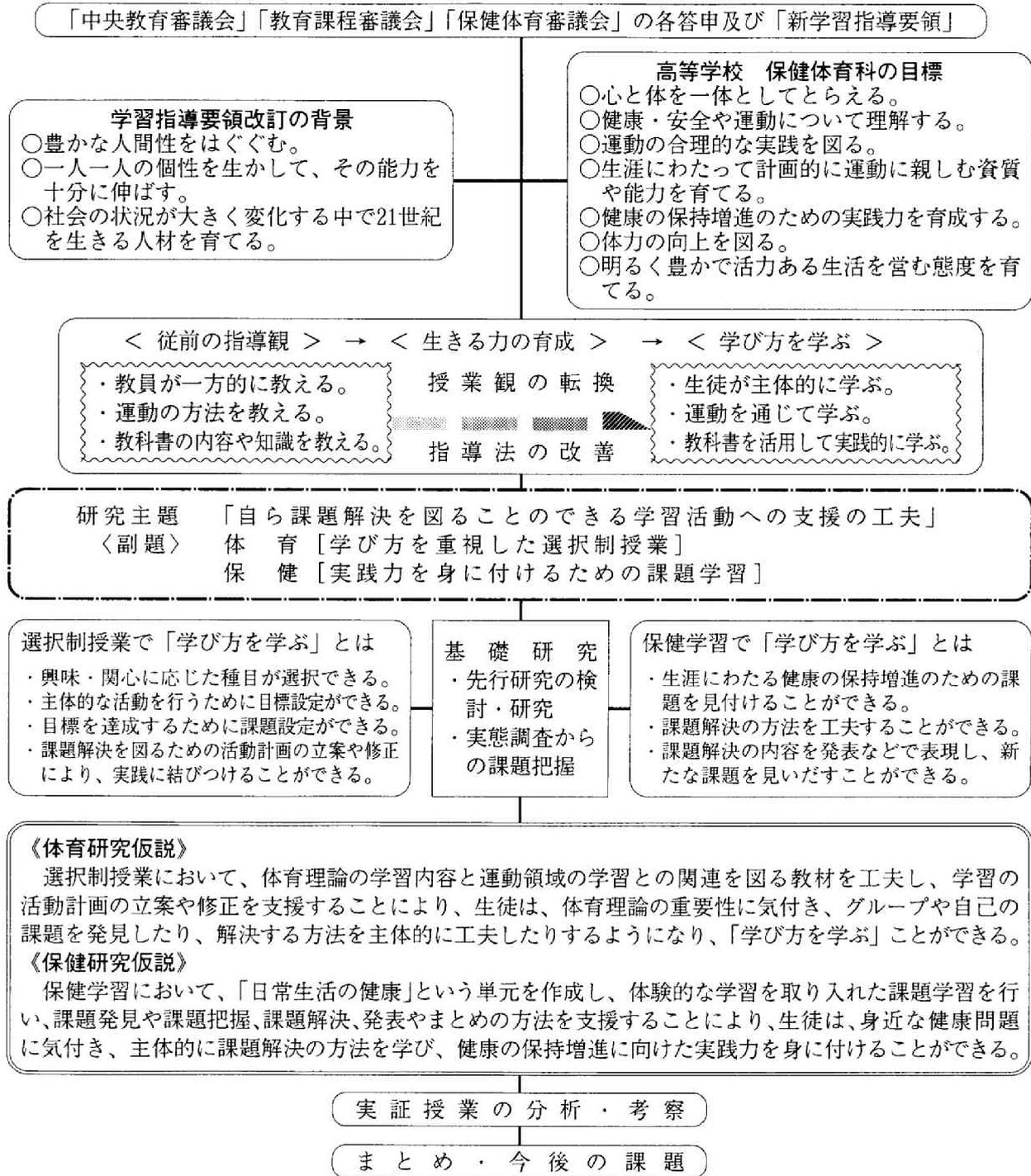
本研究では、生徒がヘルスプロモーションの考え方にに基づき、健康に関する意志決定や行動選択及び健康的な社会環境づくりの大切さを理解し、心身の健康の保持増進を図るための実践力を身に付けることが重要であると考えた。そのために、生徒が身近な健康問題に気づき、体験的な学習などを基盤とした課題学習による保健の授業改善を目指すこととした。

そこで、教師主導の知識伝達に偏りがちな授業から、生徒の主体的な学習活動への転換を図るために、生徒が身近な健康問題に気づくきっかけとしての体験的な活動や調査研究及び発表などにおける体験的な学習を通じて、生徒が主体的に課題解決できるような新たな単元や課題学習に対する支援の在り方について研究を進めることとした。

3 研究の経過



4 研究の構想図



II 研究の内容

◆◆ 体育 ◆◆ 〈副題：学び方を重視した選択制授業〉

1 先行研究からの課題把握

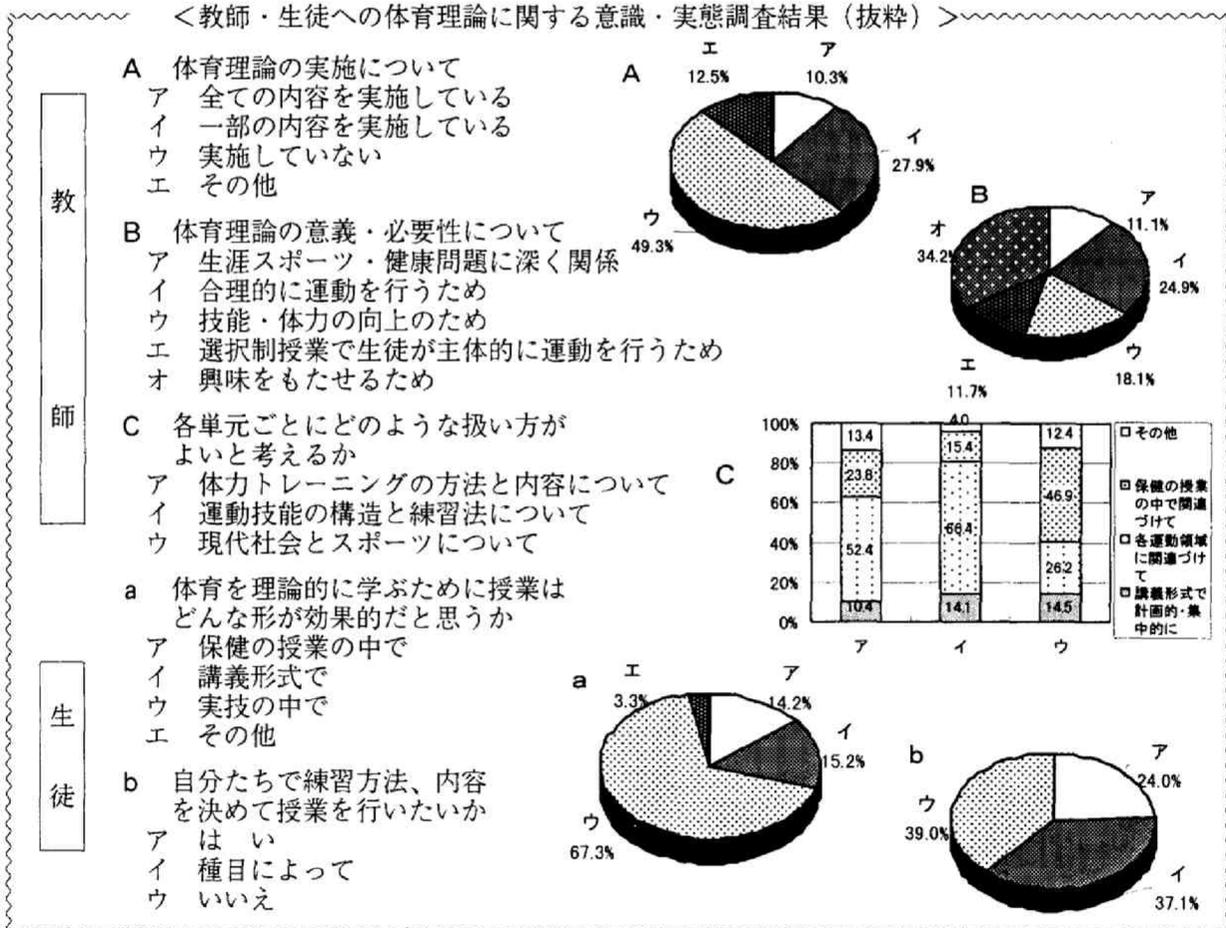
自ら課題解決を図ることのできる学習活動への支援を工夫するために、学び方を重視した選択制授業の在り方を研究することとした。生徒が生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てることが重要であることから、体育理論の学習内容を運動の実践を通して、学ばせることが大切であると考え、「体育理論」や「選択制授業」に関する先行研究から課題を把握することとした。

(1) 体育理論や選択制授業に関する教師や生徒の意識について

① 体育理論について（平成9年度教育研究員 高等学校保健体育部会報告書より抜粋）

多くの教師が体育理論の意義や必要性を感じているが、その実施は38.2%にとどまり、扱いは、各運動領域との関連付けや保健と関連付けて行うとよいと考えている。生徒の67.3%が体育理論を実技の中で学習したいと考え、約6割の生徒が自分たちで練習の方法・内容を決めたいと考えている。

＜教師・生徒への体育理論に関する意識・実態調査結果（抜粋）＞



② 選択制授業について（平成11年度教育研究員 高等学校保健体育部会報告書より抜粋）

教師の約7割が、生徒に課題をもたせる方法として「個人の考えやグループでの話し合い」などを重視している。また、支援の方法として「学習資料の活用」を挙げている。

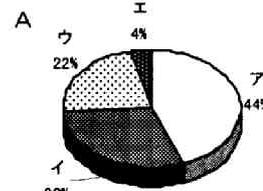
生徒は、仲間との協力が必要であり、個人やグループの課題を発見・解決して活動しようとしていることがうかがえる。また、32%の生徒が現状では授業計画を立てられずに困っている実態が明らかにされている。

＜教師・生徒への選択制授業に関する意識・実態調査結果（抜粋）＞

教師

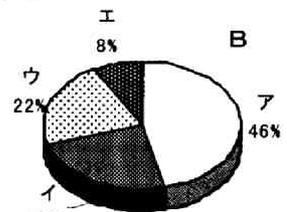
A 選択制授業において生徒に課題をもたせる方法

- ア グループで話し合いをもつ
- イ 教師が与える
- ウ 生徒個人で考える
- エ その他



B 課題を明確にもつための具体的な支援方法

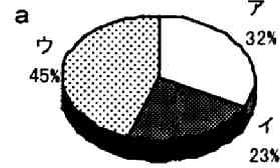
- ア 学習ノート、個人カード等の活用
- イ 視聴覚機器の利用
- ウ 評価基準の提示
- エ その他



生徒

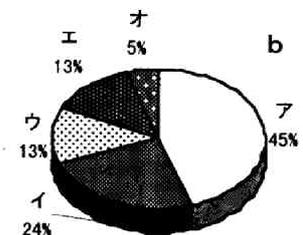
a 選択制授業を行う上で困っていること

- ア 授業計画がうまく立てられない
- イ 技術が上達しない
- ウ その他



b 選択制授業を現在より充実したものとするために必要なもの

- ア グループの仲間の協力
- イ 明確な目標や課題
- ウ 教師の助言、支援
- エ 運動特性の十分な理解
- オ その他



(2) 体育理論や選択制授業に関する先行研究における今後の課題について

① 体育理論について

- ア 運動領域の学習との関連を一層重視した体育理論の学習方法の工夫
- イ 学び方を学ぶことができるような学習資料の工夫・改善
- ウ 体育理論の学習指導における教師のかかわり方

② 選択制授業について

- ア 学び方を重視した単元計画や学習過程の工夫
- イ 生徒の主体的な学習を促すための学習資料の工夫・改善
- ウ グループの協力や課題を明確化するための教師のかかわり方の工夫

2 仮説の設定

生徒が主体的に課題解決を図る選択制授業は、体育理論の学習内容を理解していることが重要であると考えた。しかし、先行研究の課題から、教師は、体育理論の必要性を理解しながらも十分指導できていない現状を把握することができた。

選択制授業を通じて運動領域の学習と関連を図りながら体育理論を学ぶことにより、グループや自己の能力に応じた目標の設定、課題発見や課題解決を図るための練習の方法、学習活動の計画立案や修正等について生徒自ら実践できる能力を育てることができると考えた。

また、体育理論を参考にしながら、課題発見や課題解決を図る学習の活動計画を立案・修正する際に活用する「学習ノート」や「体育理論シート」を工夫することとした。

これらのことから、次のような仮説を設定した。

《仮説》

選択制授業において、体育理論の学習内容と運動領域の学習との関連を図る教材を工夫し、学習の活動計画の立案や修正を支援することにより、生徒は、体育理論の重要性に気付き、グループや自己の課題を発見したり、解決する方法を主体的に工夫したりするようになり、「学び方を学ぶ」ことができる。

3 選択制授業における単元の学習活動例

仮説を実証するに当たり、以下に示すような単元の学習活動例を考えた。

選択制授業において、生徒自らが課題を見付け、課題解決を図ることができるような学習で、生徒がグループや自己の課題を見付け、課題解決を図るための練習方法や戦術などを考

(1) 単元の学習活動例

時間	学 習 過 程	学 習 活 動
1 } 2	<p>選択制授業の単元の独自の段階</p> <p>○オリエンテーション ・種目選択 ・グルーピング ・活動計画の立案</p>	<p>○学習環境・条件を知り、自らの興味・関心に応じた種目を選択する。 ○選択した種目ごとのグループで学習活動の計画を立てる。 ○グループ内での役割分担を決める。 ※体育理論との関連→『社会の変化とスポーツ』 ・変化する現代社会におけるスポーツの意義や必要性 ・スポーツとのかかわり方や豊かなスポーツライフの設計と実践</p>
3 } 10	<p>選択した種目の特性を追究する段階</p> <p>○ねらい1 ・自分(たち)の力に合った運動の行い方を決め、運動の特性に触れるための練習やゲームを行い、その方法を学びながら工夫する。</p>	<p>○グループで作成した学習活動の計画に基づき、練習を行い、作戦を工夫して試しのゲームなどを行う。 ○学習活動を通して、グループや個人の課題を発見し、新たな練習方法をグループで考え、活動計画を修正する。 ※体育理論との関連→『運動技能の構造と運動の学び方』 ・運動技能の構造的な理解 ・運動技能の上達過程と上達の程度の把握 ・運動に親しむための学び方の理解</p>
11 } 16	<p>○ねらい2 ・練習により、高まった力にふさわしい運動の方法を決め、ゲームや大会などを運営できるようにする。</p>	<p>○グループや自己の課題解決の状況を把握するとともに、練習やゲームを通して、運動の特性を追究するために、新たな課題や計画的な練習方法などを考える。 ※体育理論との関連→『体ほぐしの意義と体力の高め方』 ・体ほぐしの意義と体力の高め方</p>

を進めるためには、体育理論の学習内容と運動領域の学習との関連を図り、運動の特性に応じえ、主体的に学習を進めていくことが重要である。

教師の支援	評価の観点	教材等の工夫
<p>◎生徒が体育理論を活用した運動領域の学習を通じて、グループや自己の課題を見付け、解決を図るための練習方法や戦術を工夫していくような学習の大切さを理解できるようにする。</p> <p>◎生徒がグループや自己の課題を解決するために、体育理論を活用して、練習方法を考えることができるようにする。</p> <p>◎生徒がグループや自己の課題を見付けるために、簡易ゲームやスキルテスト、体力テストなどを活用できるようにする。</p> <p>◎生徒がルールを工夫したり、練習やゲームを行ったりしながら、運動の特性を追究できるようにする。</p>	<p>・自らの意志で種目を選んでいるか。</p> <p>・「計画－実施－評価」の学習サイクルで活動を積み重ねていくことが理解できたか。</p> <p>・課題解決に向けた学習の見通しをもつことができたか。</p> <p>・運動の特性にふれたり、運動の特性を踏まえた課題の設定や練習方法になっているか。</p> <p>・グループの課題解決に向けた学習活動を通じて人間関係づくりなどにも結びついているか。</p>	<p>・学習ノート</p> <p>・グループミーティング</p> <p>・体育理論シート</p> <p>・学習ノート</p> <p>・体育理論シート</p> <p>・スキルテスト</p> <p>・体力テスト</p> <p>・グループミーティング</p> <p>・学習ノート</p> <p>・グループミーティング</p> <p>・体育理論シート</p>

(2) 選択制授業における支援について

単元の学習計画に基づき、グループや自己の課題を見付け、自ら課題解決できるような学習を進めるために、次のような支援の在り方を考えた。

①オリエンテーションの段階での工夫

- ア 生徒が自らの興味・関心に応じた種目を選択できるようにするため、事前に意識調査を行い、学習環境や条件に無理がない範囲で、できる限りの運動種目を用意する。
- イ 生徒が学習の見通しをもち、学習計画を立案するための学習ノートを用意する。
また、学習計画を立てる際に参考となる体育理論シートを用意する。
- ウ グループは、選択した種目ごとに編成し、生徒が役割分担を行う際、誰もがリーダーや学習計画を立案できるような工夫を促す。
- エ 生徒が学習ノートの作成・活用を通して「学び方を学ぶ」という学習のねらいを理解できるようにする。

②ねらい1の段階での工夫

- ア 生徒が運動の特性に基づき、グループや個人の課題を発見できるように、簡易ゲームやスキルテスト、体力テストなどの活用を促す。
- イ 生徒がグループや自己の課題を解決できるように、グループ内の話し合いを重視し、体育理論シート等を参考にしながら練習方法などを工夫できるようにする。
- ウ 生徒が毎時間の学習活動について自己評価や相互評価を行い、次時の課題を明確にしながら、学習計画を立案できるようにする。

③ねらい2の段階での工夫

- ア 生徒がグループや自己の新たな課題を発見したり、課題解決する方法を工夫したりするために、グループ間での情報交換の活用を促す。
- イ 生徒がねらい1の段階の学習で高まった力を実感できるようなゲーム等を計画的に運営・実施できるようにする。
- ウ 生徒がゲーム等を通して、ルールの工夫や戦術の重要性などを気付くようにする。

④評価の工夫

- ア 生徒が学習ノートの評価欄への記入を通して、学習活動における「計画（P）－実施（D）－評価（S）」のサイクルの重要性を気付くようにする。
- イ 学習計画の修正を行うために、グループとしての自己評価を活用できるようにする。
- ウ グループにおける個人の役割や活動状況などを理解するために、グループ内での相互評価を活用できるようにする。
- エ 各グループの活動状況について、グループ間での相互評価を活用できるようにする。
- オ 生徒の運動欲求を把握するための診断的評価や学習活動の各段階における形成的な評価を行う。

⑤教材の工夫

- ア 生徒が選択制授業における学習活動の「計画－実施－評価」のサイクルや単元全体の見通しをもち、学習段階ごとに計画を修正できるようにする学習ノートを工夫する。
- イ 生徒がグループや自己の課題解決を図るための練習の方法や戦術を考える際の参考となる体育理論シートを作成する。

体育理論シートの例 『運動力領域の学習編（基礎）』（エンジェルシート）

1 現代社会におけるスポーツの果たす役割について

生涯を通じて、健康で明るく豊かな生活を送るためには、適度な運動を適切に行うことが重要です。労働時間の短縮や学校週5日制の実施に伴い、増加した余暇を利用したレクリエーションやスポーツは、生活習慣病の予防やストレスの発散等、心身の健康の保持増進に有効な手段となります。そして、ちょっとした時間で行うことができる簡単な運動は、体の調子を整えたり、心をほぐしたりして、生活に活力を与えてくれます。また、スポーツは、自分の地域だけではなく、国際交流にまでコミュニケーションの輪を広げ、連帯感や新しい発見をもたらしてくれるものであり、生きがいや達成感など自己実現にもつながる大変重要な役割を果たしてくれます。運動に関する正確な知識をもち、楽しみながら安全かつ効果的に運動を実践できるようになることは、明るく豊かなスポーツライフの実現に欠かせないものとなっています。

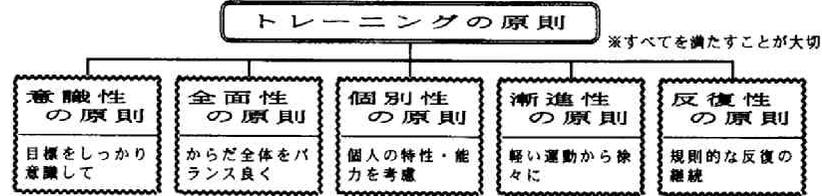
2 運動をするときは

スポーツやレクリエーションを行うときには、自己の能力・体調を把握し、急に、激しい運動などを絶対に行わないようにすることが大切です。計画的に、弱い負荷の運動から時間（期間）をかけて徐々に負荷を強くしていきます。集団で行う場合は、仲間を尊重し、協力しながら、お互いの安全に十分留意して行いましょう。

3 トレーニングとは

人は、それぞれに違いがあるよう、健康状態や身体能力・運動能力には、個人差があります。個人の目的やその時の状況や状態にあった方法・適切な負荷で行うことが大切です。その中で筋力・持久力・調整力を維持し高めて行くことを考えましょう。

(1) トレーニングの原則



(2) 効果的なトレーニングの方法

- ① **オーバーロード（過負荷）の原則**
日頃行っている運動より少し負荷の大きいもので運動することを繰り返す。
- ② **運動強度・運動時間・運動頻度の効果的な組み合わせ**
・運動強度が強ければ運動時間（回数）を短くする。
・運動強度が弱ければ運動時間（回数）を長くする。
・運動頻度は、1週間に2日から4日が望ましい。
- ③ **全習法と分習法の組み合わせ**
・全習法＝全体的な動きや様々な技能の組み合わせをまとめて練習する。（全体的な動きや技能の中から課題を発見できる）
・分習法＝個々の動きや技能を取り出して練習する。（全習法で発見した課題の動きや技能に焦点をあて解決する）
- ④ **集中法と分散法の使い分け**
・集中法＝ほとんど休みを入れずに練習を行う。（初歩の段階や全体的な練習には効果的）
・分散法＝適度に休憩を入れながら練習を行う。（高度な練習や負荷の高い練習には効果的）
- ⑤ **他者観察と自己観察**
・自分自身もつ自分の運動や動作のイメージと、他者から観察してもらったものがあるかどうか、ずれているところを修正していく。
- ⑥ **イメージトレーニング**
・自己の理想とする動作や技能をイメージできるようにする。運動を始めるときは、常にいいイメージをもって行う。
・ビデオなどを活用し、自己の成功例や理想とする他者の動作や技能を観る。

体育理論シートの例 『ソフトボールの技術・戦術編』（エンジェルシート）

1. 技術 練習の段階 ①初期・中期→②初期・中期・後期→③中期・後期

1. 投げる オーバースロー（高い姿勢で速くに）・サイドスロー（近くに素早く）・アンダースロー（近くに低い姿勢） スロー（オーバースロー中心に）		
①投げる。 ・正しいボールの握り ・近くに ・正確に ・速投競争 ・速い球	②正確に投げる。 ・相手の胸を目標にしたキャッチボール ・1塁手に各ポジションから速球	③捕球後、素早く投げる。 ・2人1組 ・3人1組三角形で ・4人以上で塁間ボール回し ・ランニングスロー
☆投げる手と反対の足を踏み出して肘を先行させながら。（足腰の安定） （肩・握力の強化）	☆目標を最後までよく見て、投げる。（足腰の安定） （フォームの安定）	☆無駄ない動きで、一連の流れの中で投げる。 グロウプの引きつけ 小さなモーション （足腰の安定）
ピッチング（両足を投手板に乗せ、1歩踏み出して下手投げで投げる。）		
①一定距離を投げる ・まずは短い距離 ・男子12m届く ・女子10m届く?	②素早く正確に投げる。（コントロール） ・ストライクゾーンを理解して ・バッターなしで三振とれるかな?	③速いボールを正確に投げる。 速球・変化球 打者と対戦 試合
☆スリングショット・ウインドミルで、投げてみる。 大きな弧を描く。 （足腰の安定） （腕の振り） （肩の可動域拡大） （重心の移動）	☆目標をしっかりと見て、投げる。（足腰の安定） （フォームの安定） （腕の振り） （肩の可動域拡大）	☆ストライクゾーンをいっぱいに使って投げる。 ボールに緩急をつける。 （足腰の安定） （フォームの安定） （肩・腕・握力の強化） （肩の可動域拡大・腕を速く回転）
2. 捕る（捕球） 下半身を安定させて、体の正面でグローブを引いて、ボールの勢いを殺して正確に捕球する。		
①短い距離 ・送球キャッチ ・弱いノック ・ワンバウンド・ゴロ	②長い距離 ・速投キャッチボール ・正面に来るノック ・ゴロ・フライ	③バウンドボール ・バウンドでのキャッチボール ・強いノック（様々な） ・バント処理・本塁を死守
☆早めにグローブを出す。 良くボールを見る。	☆早めにグローブを構える。 ボールとグローブを目線に合わせる 捕球時にグローブを引く。 落下点の手前。	☆腰を落とす。 早めにグローブを用意する。 ボールの正面に入る。 グローブを前に構える。 （足腰の安定）
3. 打つ 右利きは、ホームベースの左側に、左足を前に肩幅よりやや広く開いて膝を軽く曲げて立ち、右手を上にして両手でしっかりとバットを握り、右足の真上あたりにバットを構える。腰の回転でスイングする。 バント（バットの握りを大きく空けて、膝と肘を大きく曲げて構える。）		
①緩いボールに当てる ・近い ・遠い	②速いボールに当てる ・やや速い ・ピッチングに	③狙ったところに転がす・飛ばす。 ・緩いボールに当てる（近い・遠い） ・速いボールに当てる ・ピッチングに
☆バットに目線を近づけて、軽くバットを出して当てる。	☆バットをしっかりと握り、ボールをよく見て当てる。 基本的に転がす。 （足腰の安定） （握力の強化）	☆バットに目線を近づけて、軽くバットを出して、ミートする。 腰を落とすして、ボールをよく見る。 （足腰の安定） （肩を含めた腕全体の強化）
バッティング（ハーフバッティングからフルスイングへ） 後ろ足に体重を乗せてバックスイングをし、前足に体重を移しながら脇を絞りと、腰の回転でスイングをする。手首を返し、腕、腰、肩を回転させてフォロースローを行う。		
①当てる1 ・バットを正しく握る ・ティーを使って ・自分でトスして ・トスしてもらって	②当てる2 ・緩いボールを打つ ・速いボールを打つ ・ピッチングに ・コースの打ち分け	③狙ったところに打つ ・ティーを使って ・自分でトスして ・トスしてもらって ・ボールを打つ（近い・遠い）
☆ボールをよく見てしっかりと握って（グリッパ） 正確にミートする	☆最後までボールをよく見てしっかりと握って脇をしめて （足腰の安定）	☆最後までボールをよく見てしっかりと握って脇をしめて （足腰の安定） （肩を含めた腕の強化）
4. 走塁 打った後、右方向！塁側に向かう。単打の時は1塁ベースを駆け抜ける。2塁打以上は弧を描きながら走る。2・3塁で止まりたいときや、タッチを避けたいときはスライディングが効果的		
①走る ・1塁まで（最短距離） ・2塁で止まる ・1周する	②止まる・戻る ・ベースで止まる ・塁間で引き返す ・（スライディング）	③進塁・盗塁 ・スライディング ・ベースランニング（ホームまで）
☆（ダッシュ力向上） （足腰の強化）	☆（スタート・ストップ強化） （ダッシュ・ターン強化） （フォーム・足腰の強化）	☆スライディングは防場練習。 手のつき方は指先が前向き。 （足腰の強化） （重心の低い走姿勢）

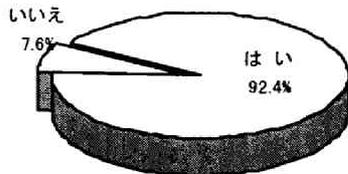
5 実証授業の結果と考察

仮説を実証するため、生徒への意識調査を実施した。その調査結果と考察は、以下のとおりである。(回答数は有効回答数のみ)

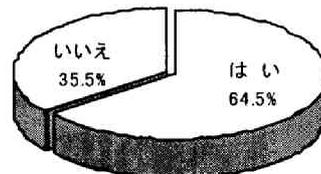
調査対象校：都立高等学校 2校 276名

(1) 課題発見・課題把握や課題解決について

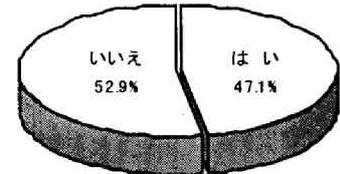
①自分(たち)の課題を見付けることができたか。



②課題解決のための練習計画を自分(たち)で立てることができたか。



③自分(たち)で課題を解決することができたか。



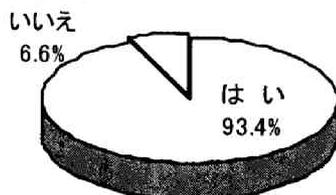
グループや自己の課題については、92.4%の生徒が学習課題を主体的に発見し、64.5%の生徒が課題解決のための練習計画を立てることができたと回答している。

また、47.1%の生徒が課題を解決することができたと回答している。

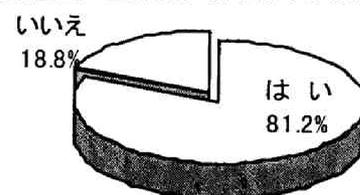
これらの回答から、生徒が課題を明確化できるように、体育理論シートの活用を意図的に促したことより、生徒は、グループや自己の課題を見付け、課題を解決するための練習計画を立案・修正できたと考える。しかし、課題を解決できたと回答している生徒が50%に満たなかったことから、課題解決を実感できるような学習ノートへの助言や評価などの具体的な支援をより一層の工夫する必要があると考える。

(2) 授業の取組について

①楽しく取り組みましたか



②自主的・主体的に取り組みましたか



授業への取組については、93.4%の生徒が、楽しく取り組み、81.2%の生徒が自主的・主体的に授業に取り組みたと回答している。

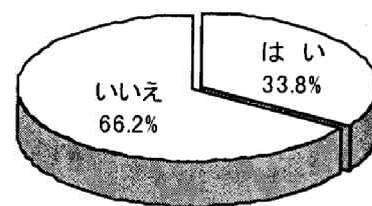
この回答からは、事前の意識調査やそれに応じた種目を用意したことにより、生徒が自らの意志で種目選択ができ、学習ノート等の工夫により、自分(たち)で練習計画を決めたという実感がもてたため、学習意欲が高まり、授業へ取り組む姿勢を自主的・主体的なものにすることができたと考える。

(3) 体育理論について

①今回の学習で、体育理論を意識して取り組めたか



②今回の学習で体育理論を学べたか



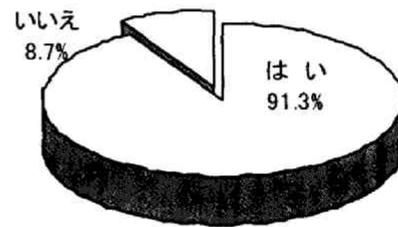
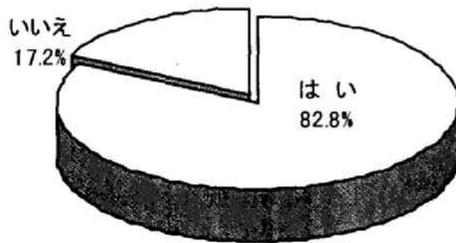
体育理論については、30.2%の生徒が体育理論を意識して学習へ取り組み、33.8%の生徒が運動実践を通じて体育理論を学ぶことができたと回答している。

この回答から、体育理論の学習内容と運動領域の学習との関連を図るために、体育理論に基づく活動の視点を記入できる学習ノートの工夫や助言、体育理論シートによる情報提供などの支援をしたが、生徒は、運動領域の学習を通じて、体育理論を学ぶことが実感しづらかったと考える。

今後、教師のかかわり方などについて、より一層の工夫が必要と考える。

①今回の学習の形式が他の種目でも必要と思うか

②今回の学習の経験は、今後の自分(たち)でスポーツを行うときに役立ちますか



(4) 今後のスポーツ活動について

今後のスポーツ活動については、82.2%生徒が今回の学習活動が、他の種目でも必要だと回答し、91.3%の生徒が今後自分でスポーツを行うときに役に立つと回答している。

これらの回答から、生徒の主体的な学習活動を促し、教材の工夫などの支援をしたことにより、主体的にグループや個人の課題を見付け、課題解決を図るような練習やゲームの方法などを工夫することができ、生涯を通じた豊かなスポーツライフを過ごすための資質・能力を育てることにつなげることができると考える。

また、(3)の問いでは、体育理論を学んだと回答した生徒は約3割であったが、今回の学習の経験が今後自分でスポーツを行うときに役立つと回答している生徒が約9割いることから、体育理論の学習内容と運動領域の学習との関連を図ることができ、豊かなスポーツライフの基礎づくりに結びつけることができたと考える。

6 研究の成果と今後の課題

生徒の「学び方を学ぶ」力を導き出すために、選択制授業における運動の実践を通じて体育理論の重要性に気付かせ、主体的に課題解決できるような支援の在り方や工夫について研究した結果、次のようなことを明らかにすることができた。

(1) 研究の成果

①「体育理論を学ぶとしたら実技の中で学びたい」との要望に対応することができた。

練習の方法や活動計画を作成する際、学習ノートに体育理論との関連を記入するような支援を行ったところ、運動領域の学習を通して、生徒が体育理論を意識し、学ぶことができたと回答した生徒は約3割であった。しかし、グループや個人の課題を見付け、生徒が課題解決を図るための練習計画やゲームを工夫し学習を進めていくことが、全体の約9割の生徒から今後のスポーツを行うときに役立つとの回答を得ることができたことに結びついていると考える。

②「思うように学習計画を立てられない」という課題を解決することができた。

学習活動の計画を立案するに当たり、学習ノートへの助言、グループや自己の課題を明確にするスキルテスト等の例示、各グループの課題解決の方法などについての情報交換などを行うような支援を行ったところ、約8割の生徒が自主的・主体的に計画を立て、意欲的に楽しく授業に取り組むことができたと回答している。

この回答から、選択制授業において、教師から教えられるのではなく、生徒自らグループや自己の課題を解決する学習活動の計画を作成し、実践できるようになり、主体的な学習活動に結びついていると考える。

③体育理論の学習の成果を得ることができた。

選択制授業において、体育理論を参考にしながら課題解決を図る学習活動を通じて、約9割の生徒が今後スポーツを行う際に役立つと回答している。

この回答から、スポーツの意義や運動技能の高め方などについて、学習活動を通じて理解していることに結びついていると考える。

④学び方を学ばせることができた。

生徒は、学習ノートや体育理論シートを活用して、グループや自己の課題を発見し、課題解決を図るため、主体的に学習活動の計画や修正を行うことができるようになり、その過程を通じて、「学び方を学ぶ」ことに結びついていると考える。

以上のことから、体育理論の学習内容と運動領域の学習との関連を図り、グループや自己の課題を見付け、生徒自らが課題解決に向けた練習やゲームができるように支援したことにより、生涯を通じて豊かなスポーツライフを過ごすことのできる資質や能力を身に付けるための学び方を学ばせることに結びつけることができたと考えている。

(2) 今後の課題

①教材の工夫について

生徒が、学習の見通しをもつことができ、学習の記録を積み重ねることにより、課題解決の方法を考えることができるような学習ノートをより一層工夫すること。

②体育理論の学習内容と運動領域の学習との関連を図った課題解決を図る学習の継続について

他の運動種目で実施することやそれに対応した体育理論シートを開発すること及び3年間を見通した学習指導計画を工夫・開発すること。

③選択制授業全般における評価について

活動計画の立案・実践・評価（P-D-S）に役立つ評価項目や評価の観点を作成すること及びP-S-Dの学習サイクルの大切さに気付かせる教師の指導・助言・援助の在り方を工夫すること。

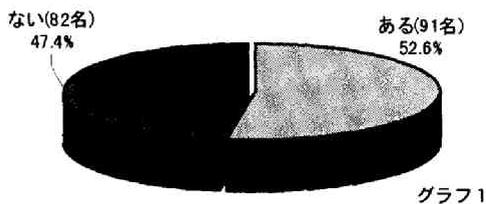
◆◆ 保健 ◆◆ 〈副題：実践力を身に付けるための課題学習〉

1 保健における課題学習などに関する実態調査

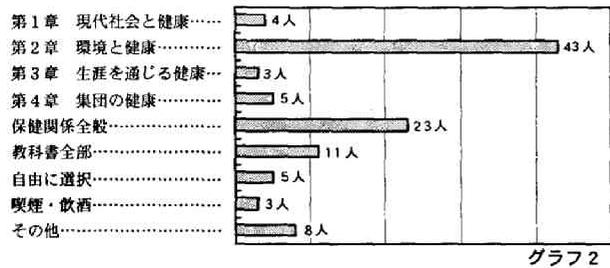
課題学習の研究を進めるため、課題学習や体験的な学習などの実施状況について、その実態を把握するために、現行の学習指導要領に基づき、保健学習における実態調査を行った。

- (1) 調査期間 平成12年6月
- (2) 調査対象 都立高等学校保健体育科教諭 173名(50校)
- (3) 調査内容 保健における課題学習や体験的な学習に関する実施状況について
- (4) 調査結果

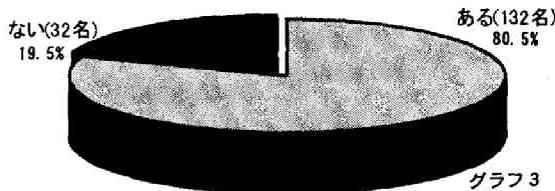
Q1 生徒自身が課題を選択し、課題を解決する学習を行ったことがありますか。(回答数173)



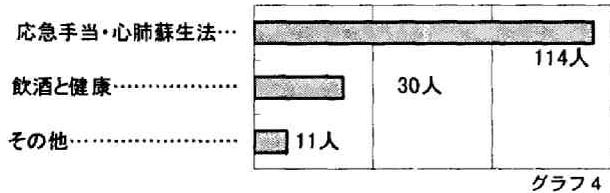
Q2 課題を解決する学習は、どの単元や内容で実施していますか。(記述・複数回答 回答数105)



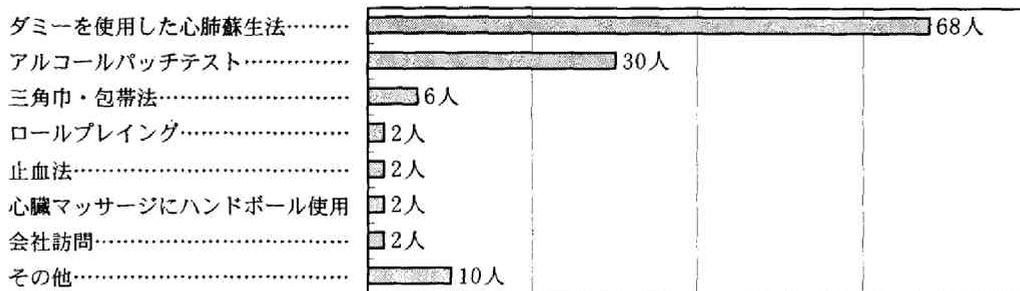
Q3 保健学習において体験的な学習を行ったことがありますか。(回答数164)



Q4 体験的な学習を行った学習内容(記述・複数回答・回答数155)



Q5 体験的な学習の具体例(記述・複数回答 回答数122)



Q6 課題学習の各段階における学習活動の工夫(自由記述式()内は回答108)(表1)

課題発見・課題把握 (21)	課題解決 (63)	発表・まとめ (24)
生徒が課題作成 (7)	グループ調査 (40)	レポート作成 (19)
テーマを自由に選択 (5)	調査研究・文献研究 (14)	ロールプレイング (2)
新聞ニュースなどを資料にテーマ決定 (3)	図書館・リサイクルセンター等で調査 (3)	ビデオレポート (1)
関心のある問題 (1)	取材調査・インターネット利用 (2)	ディベート (1)
将来の職業に近いもの (2)	仮説の作成 (2)、実験・実習 (1)	発表 (1)
身近な問題の中から選ぶ (2)	夏休みの宿題 (1)	
自由に決める (1)		

Q7 課題学習の各段階における支援の工夫（自由記述式()内は回答数 68) (表2)

課題発見・課題把握 (11)	課題解決 (27)	発表・まとめ (30)
範囲の重なりを調整する (2)	助言 (事前・中間・発表) (10)	発表方法工夫(14)・ビデオの作成 (3)
テーマの工夫 (3)	レポート資料収集 (6)	自由発表・評価をさせる (3)
オリエンテーションの工夫 (1)	図書館の利用 (3)	質疑のできる用紙作成 (1)
関心をもたせる (1)	アンケート調査の工夫 (2)	ニュースの解説にならないように自分のコメントを求める (1)
身近な課題を見付ける (1)	関係機関を訪問し調査 (4)	発表以外の生徒が評価レポート (2)
グループから個人に (1)	夏休みの宿題 (1)	3分間スピーチ (2)
グループングの工夫 (1)	インターネットの利用 (1)	新聞の作成 (2)・研究発表 (2)
例を挙げる (1)		

(5) 調査結果について

保健学習において、課題を解決する学習を実施している教師は、52.6% (91人)であった。そのうち、「環境と健康」の学習内容が47.3% (43人)と最も多かった。

この回答から、生徒自ら課題を見付け、課題解決を図るような学習を工夫している教師が約半数おり、「環境と健康」の学習内容が多く扱われていることが分かる。

次に、体験的な学習を取り入れている教師は、80.5% (132人)と多く、具体的には、「ダミーを使用した心肺蘇生法」が51.5% (68人)と多い。その他に、「アルコールパッチテスト」や「応急手当」などの学習が行われていることが分かった。

課題学習の各段階における学習活動の工夫を分類すると、課題学習を行っている教師のうち、課題解決時の工夫が69.2% (63人)と多く、その内容は、「グループによる調査活動」が63.5% (40人)と最も多い。

また、課題解決型学習を行っている教師 (91人)の支援として回答があったものは、課題解決時や発表時への支援の工夫が62.6%であり、助言や発表方法への支援が多く行われていることが分かった。

2 仮説の設定

体験的な学習を活用した課題学習は、保健学習において、実践力の育成につながると考えた。

しかし、実態調査からも分かるように、「環境と健康」の学習内容が主で、他の学習内容では、あまり実施されていないことが分かった。また、体験的な学習もダミーを使った心肺蘇生法やアルコールパッチテストなどの実習がほとんどであった。

この調査結果を踏まえ、「教師が教える」から「生徒が自ら学び考える」ことを研究の視点として、生徒が身近な健康問題に気付き、課題解決の過程で新たな課題を把握し、学習の深まりや広がり結びつくような課題学習についての研究を進めることとした。

そのために、課題発見・課題把握の段階では、課題を見付けるきっかけとして、体験的な活動を活用し、学習への興味・関心や意欲を高め、主体的に課題解決できるような支援の在り方を工夫することとした。また、課題解決の段階では、文献やインターネットを利用した情報収集、実験・実習、調査訪問などの体験的な学習を支援することとした。以上のことから、保健における課題学習を通じて「実践力」の育成に図るために、次のような仮説を設定した。

《仮説》

保健学習において、「日常生活の健康」という単元を作成し、体験的な学習を取り入れた課題学習を行い、課題発見・課題把握、課題解決、発表・まとめの方法を支援することにより、生徒は、身近な健康問題に気付き、主体的に課題解決の方法を学び、健康の保持増進に向けた実践力を身に付けることができる。

3 研究の視点

仮説を実証するに当たり、課題を見付けるための体験的な活動を学習過程に位置付け、生徒が主体的に課題を把握し、課題解決することを目指した課題学習の在り方を研究することとした。そこで、本研究を(1)教材の工夫、(2)学習過程の工夫、(3)学習方法の工夫、(4)学習形態の工夫、(5)教師の具体的な支援の工夫という5つの視点から検討を進め、課題学習を具体化することとした。

(1) 教材の工夫

- ① 生徒が身近な健康問題に興味・関心をもち、主体的な課題学習を進めることができるようにするため、「日常生活における健康」という新たな単元を作成する。
- ② 生徒が自らの学習計画を立案したり、修正したりできるような学習シートを作成する。
- ③ 課題を見付けるためのきっかけとなる体験的な活動の教材を工夫・開発する。

(2) 学習過程の工夫

- ① 学習段階を「課題発見・課題把握」「課題解決」「発表・まとめ」と大きく3つ分け、生徒に学習の見通しがもてるようにする。
- ② 生徒やグループの課題解決の度合いや学習進度にあわせて、課題学習の各段階に相当する時間を弾力的に扱うようにする。
- ③ 課題学習の各段階において、生徒やグループの課題学習の経過や他のグループの活動状況を把握したり、活動内容を理解したりできるような機会として、中間報告会を設定する。また、グループ間での情報交換により、課題の整理・統合ができるようにするとともに、学習活動の修正や新たな課題を見付けることができるようにする。

(3) 学習方法の工夫

- ① 生徒が学習シートの作成を通じて、学習計画を立案したり、学習計画を修正したりすることにより、生徒の主体的な学習活動を引き出す。
- ② 課題発見・課題把握の段階に、生徒が日常生活の中から健康問題などの課題を発見するためのきっかけとして、体験的な活動を取り入れる。

体験的な活動として、次の4例を用意する。

ア アルコールパッチテスト イ 水質検査 ウ 運動と消費カロリー エ 介護・援助

- ③ 課題発見・課題把握の段階に、生徒一人一人が課題を見付けたことなどをグループで意見交換することにより、課題の共有化や新たな課題を発見するなど、自らの興味・関心に応じた課題を生徒自らが把握できるようにする。
- ④ 課題解決の段階では、文献の研究やインターネットを活用した情報収集、実験・実習、調査訪問などの体験的な学習を積極的に取り入れる。
- ⑤ 発表・まとめの段階では、グループや生徒相互が、それぞれの課題学習の成果等を発表し、質疑応答や評価などを行うことにより、新たな課題を把握したり、解決不十分な課題を再検討したりすることができるようにする。

(4) 学習形態の工夫

個人やグループでの学習形態を弾力的・流動的に扱い、学習過程の各段階で適切な学習活動に取り組めるようにした。

- ① 課題を見付けるきっかけとなる体験的な活動は、「個人」、「グループ」で生徒が興味・関心のあるもののでできるだけ多く取り組み、主体的に課題発見できるように配慮する。
- ② 課題発見・課題把握の段階では、当初の課題を意見交換できるようなグループを構成できるようにする。
- ③ 課題解決の段階では、同じような課題をもった生徒が主体的に課題解決できるようなグループを構成できるようにする。
- ④ 発表・まとめの段階では、限られた時間で課題解決の成果を発表できるようにするため、課題解決のグループを1クラスで8グループにまとめる。

(5) 教師の具体的な支援の工夫

課題学習を進めていく過程で、生徒の自由な発想、思考・判断、意志決定を最大限に尊重し、生徒が自主的・主体的に学習に取り組むための支援の在り方について検討した。

① 学習シートを活用した支援

グループや生徒が自ら課題を見付け、解決するための学習計画や課題解決の方法などを記載することにより、学習の見通しがもてるようにする。

また、各学習の段階における適切な助言に努める。

② 体験的な学習への支援

日常生活の中にある健康問題に気付き、主体的に課題発見できるような体験的な活動を設定し、学校生活や社会生活との関連を図りながら、生徒の興味・関心に応じた課題を把握できるように働きかける。

③ グループイングへの支援

体験的な活動を通して課題発見をするためのグループイングや共通の問題意識をもった話し合い、課題把握できるようなグループイング、意欲的に課題解決に取り組むことができるグループイングなど、生徒の主体的な課題学習に結びつくよう弾力的にグループを編成する。

④ 調査研究活動への支援

生徒が設定した課題に対し、情報の集め方・調べ方、見学・実験に必要な施設、器具を把握し、それらに関する情報の提供に努める。また、書籍・資料などが自由に活用できる図書室や話し合いをしやすい会議室が利用できるようにする。調査で訪問する病院等との打ち合わせは、事前に十分行う。

⑤ 発表・評価

グループの発表が生徒一人一人の新たな「学びの場」となるように、発表形式を工夫したり、発表に必要な機材（OHP、VTR等）の活用を促したりする。また、生徒が相互評価し合い、解決不十分な課題や新たな発展的課題が見付けられるよう評価の観点などを工夫する。

4 課題学習における単元計画

(1) 単元設定のねらい

「個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる」という保健の目標達成を課題学習を通じて目指すために「日常生活における健康」の単元を設定する。

(2) 単元の目標

課題学習により、生徒が身近な健康問題に気づき、主体的に課題解決する過程を通じて、健康の保持増進のための実践力を養う。

(3) 単元における課題学習の指導計画

ア 配当時間 10時間

イ 配慮事項

○課題発見・課題把握、課題解決、発表・まとめの学習過程で単元を構成する。

○自ら課題を発見し、課題を解決することにより、健康的な生活を営む実践力を育てる。

	学習段階	課題学習内容		教師の支援
1	課題 発見 ・ 課題 把握 活動	・オリエンテーション	○課題学習の仕方やねらいを理解する。	◎課題学習の理解を促す。
2		・課題発見のための体験的な活動	○体験的な活動により、課題を発見する。	◎身近な健康問題に気付くような体験的な活動を用意し、課題の明確化を促す。
3		・課題解決のため話し合い活動と方法等の立案	○発見した課題を日常生活の健康問題と関連させ、主体的に課題を把握する。	
4				
5	課題 解決 体験 的な 学習	・課題解決のための体験的な学習Ⅰ	○調査研究・情報収集などの体験的な学習により、主体的な課題解決を行う。	◎多様な課題解決の方法を促す。
6		・中間報告会	○課題把握を深めるとともに、新たな課題を把握する。	◎他のグループの課題にも関心をもち、課題の広がりをもたせ、課題の広がりを促す。
7		・課題解決のための体験的な学習Ⅱ	○新たな課題解決を行う。	
8				
9	ま と め ・ 発表	・発表・まとめ	○課題解決の方法や内容が理解できるような発表を工夫し、成果の共有化と新たな課題を見いだす。	◎発表や課題解決の評価の観点を明確に示す。
10				

5 実証授業の指導事例

- (1) 時間・過程：10時間中2時間目（2学期） 課題発見・課題把握する段階
- (2) 対象：2学年
- (3) 学習内容：3～4人のグループで体験的な活動を行い課題を見付ける。
- (4) 本時の目標：体験的な活動によって、生徒が身近な健康問題に気付き、課題を発見し、課題学習に対する興味・関心を高める。
- (5) 授業展開

段階	時間	学習内容・活動	教師の支援	評価
はじめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○水質検査を行う場合は、水をペットボトルに用意しておく。 ○体育着に着替えてあらかじめ決めてある班ごとに集合する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体験的な活動で使用する器具や掲示物を体育館に設置する。 ◎本時の目標を理解できるようにする。 ◎体験的な活動をきっかけに、課題を見付けることができるようにする。 ◎器具の取扱方法について安全に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題学習の流れや体験的な活動の方法などをつかむことができたか。
なか	30分	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な活動を班員と協力しながら行う。 ○器具や試薬の取扱方法・安全に十分に注意して活動する。 ○時間配分を考え、計画的に多くの種類の体験的な活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎消極的な生徒や体験的な活動の方法が分からない生徒が自ら課題を見付けられるような助言をする。 ◎安全面の配慮をする。 ◎自主性を尊重し、班員と協力ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み方に積極性や意欲があるか。 ・健康問題に関して興味や関心をもち、課題を設定できたか。 ・班員と協力できたか。
か		<p style="text-align: center;">課題発見のための体験的な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アルコール → アルコールをしみこませた絆創膏を肘の内側に貼って反応をみる。 パッチテスト ②水質検査 → 検査試薬によって、硬度・残留塩素・化学的酸素消費量を測る。 ③運動とカロリー → 体脂肪計で自分の体脂肪を測り、運動カロリーを消費するためにエルゴメーターを使用する。 ④介護・援助 → 車椅子・アイマスク・妊婦ジャケットで体育館に設置したコースを歩いてみる。 		
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート（本時の活動内容・体験的な活動の感想・課題把握）を記入し、課題を確認するとともに、次時の活動計画に結びつける。 ○器具等のかたづけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートの記入を促す。 ◎本時のまとめができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見し、自らの課題として把握することができたか。 ・次時の活動計画の見通しがもてたか。

(6) 学習シート

生徒が課題学習を進めるに当たり、学習の見通しをもって主体的な課題学習に取り組めるようにするため、学習シートを作成する。

ア 学習シート

学習シートは、「課題発見・課題把握」「課題解決」「発表・まとめ」の各段階における学習計画や経過などを記入し、学習活動全体を企画したり、課題解決の過程を把握できるようにする。

学 習 シ ー ト (ワークシートI)		組 氏名
<課題学習のねらい>		
個人やグループの興味や関心に応じて、自己の健康問題に関する課題を発見し、自ら解決する過程を通して学び方を学び、健康の保持増進や健康的な意志決定及び行動選択などの実践力を身に付ける。		
1 課題発見・課題把握の段階		
<課題発見のきっかけ>	⇒	<個人の課題>
<グループの話し合い>	⇒	<グループでの課題把握>
2 課題解決の段階		
<課題解決の方法や学習の見通し>☆		
☆日程 (タイムテーブル)	☆課題解決の具体的な方法	☆支援して欲しいこと
<中間報告で得たことや新たな課題>		
3 発表・まとめ		
<伝えたいこと>	<発表の工夫点>	自己評価

イ ワークシート

ワークシートは、各授業ごとの学習活動を記入し、ファイリングできるようにした。
(以下、ある生徒 (Fさん) の記入例を示す)

<課題発見・課題把握①の段階>

「日常生活における健康」 <課題発見の段階>
日時： 月 日() 場所：
☆体験的な活動を通して、自分の課題を見付けよう！
☆体験的な活動の内容>

- 水質検査→水のおいしさ、汚染度、残留塩素濃度について知る。
- アルコールテスト→自分はお酒と飲めるかどうかを知る。
- 体脂肪計→体の中の体脂肪率を知る。

<体験的な活動で得た感想>

- ・冷水機の水が汚かったのは少し残念だった。
- ・東久留米の水道水は、少しきれいだったけれど、普段使っている水道水はあまりおいしくなく、きれいではないことが分かった。
- ・体脂肪は多いかなと思っていたら、意外と普通でよかった。
- ・アルコールが飲める体質でよかった。

<興味ある調べてみたい自分の課題>

- ・大気汚染や酸性雨などについて
- ・今回の水質検査で、いろいろな結果が得られたので、他のさまざまな水を検査したい。

() 組 () 番 氏名 ()

<課題解決の段階>

「日常生活における健康」 <課題解決の段階>
日時： 月 日() 場所：
☆グループで課題を解決しよう！
☆課題解決の方法>

- ・どのような方法が一番適しているだろうか。具体的に
- 事例 (一人について、深く調べるか、複数について) を調べて、その過程について調べる。
- 精神の健康 (心理) に関する脳の働きとは何かを調べる。○インターネットを活用する。
- 心理カウンセラー (病院) に詳しいことを聞く。

<課題解決の計画表>

日程表を作る

10/8	インターネット (多重人格について) で調べたことをプリントアウトし、まとめる。
↓	文献をよく読み、要点をまとめる。
10/27	それぞれの調べたことと出し合いまとめる。この間に、プリントなどを作成し、説明文を完成する。
↓	発表
11/17	

<当日の役割分担>

インターネット→Aさん
文献研究：心理→Bさん、成り立ち→Dさん、事例→Cさん、心理状態の例 (絵) → Eさん

() 組 () 番 氏名 ()

<課題発見・課題把握②の段階>

「日常生活における健康」 <課題把握の段階>
日時： 月 日() 場所：
☆自分の課題をグループで話し合い、テーマを見出そう！
☆グループで出し合った個人の課題>

Aさん：エルゴメーター体験ダイエット
Bさん：食中毒、朝食の必要性
Cさん：高齢社会での介護・ボランティア
Dさん：青少年の飲酒や薬物乱用
Eさん：食事と健康
Fさん：いろいろな水の水質検査

<グループで見出した課題>

- ・精神の健康 (心理) 問題
→ 主に多重人格について
(どうしてそうなってしまったのか)
その他の心理状態の調べ方

<課題解決するための方法>

例：調査・実験、アンケート、文献、インタビュー・インターネット等

- ・病院 (インタビュー)、文献研究、インターネットによる情報収集

() 組 () 番 氏名 ()

<発表・まとめの段階>

「日常生活における健康」 <発表・まとめの段階>
日時： 月 日() 場所：
☆課題解決の内容を発表しよう！
発表の仕方を工夫して、分かりやすい発表に心がける。
☆発表の計画>

- ・ねらい：多重人格がなぜ起こるのかということと伝える。
- ・発表形式：プリントに図をのせて、説明する。
→ 脳のつくり、母子分離の図、症状の表など
- ・分組：① 多重人格の事例を一つ説明 (プリント) する。
↓ それから、なぜ起こるのかと説明する。
② 脳の内部の説明をし、どこで、どのような考えをしているのかと説明する。
↓ (図) その考え方を利用してつなげる。
③ 多重人格の原因について説明する。(図×2)
↓ その症状を利用してつなげる。
④ 多重人格診断の基準について (図)
↓ 診断結果のやりこしと利用する。
⑤ 多重人格の誤診について
↓ ①～⑤より
⑥ まとめ

<発表の感想>

- ・緊張して、上手く話すことができなかった。
- ・質問を受けて、新たな課題や調べ方が少なかったことに気付いた。

() 組 () 番 氏名 ()

以上のように、それぞれの学習段階で、生徒が自らの活動を振り返ることができ、課題への深まりや次時の課題が明確になってくる。意欲的な課題学習へ結びつけるために、教師の適切な支援が重要である。

6 実証授業の結果と考察

(1) 事後調査

仮説の検証を行う際に、実証授業を実施した生徒にアンケートによる意識調査を行った。

(2) 調査対象

都立高等学校 2年生 73名 (回収率: 100%)

(3) 調査結果

① 課題発見について

課題発見のきっかけとして行った体験的な活動後に、課題をすぐに見付けることができた生徒が69.9%おり、課題を見付けられなかった生徒は、30.1%であった。

課題をすぐに見付けることができた生徒の理由は、多岐にわたっているが、見付けられた生徒のうち、24.7%が「日頃からその課題について興味をもっていた」と回答している。また、すぐに課題を見付けられなかった生徒の理由は、「対象範囲が広すぎて迷ってしまった」や「興味のある項目が多くて絞りきれなかった」と回答している。

② 課題学習について

今回のような課題学習について、「楽しい」と回答した生徒が23.3%、「まあまあ楽しい」と回答した生徒が52.1%いた。

その理由は、「自分の好きな課題が調べられるから」「みんなで話し合えるから」と記述している。また、「楽しい・まあまあ楽しい」と回答した55名の生徒のうち、78.2%の生徒が「課題をすぐに見付けることができた」と回答している。

なお、「発表をしたくない」や「先生の授業を聞きノートを取ることの方が自分にむいている」という理由で「教室での一斉授業の方がいい」と回答した11名の生徒のうち、81.8%の生徒は、「課題がすぐに見つからなかった」と回答している。

表 3

Q 1 - ア	Q 2		楽しい		まあまあ楽しい		教室での 一斉授業の方がよい		どちらともいえない		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
課題がすぐに見つかった	15	20.5%	28	38.4%	2	2.7%	6	8.2%	51	69.9%		
課題がすぐに見つからなかった	2	2.7%	10	13.7%	9	12.3%	1	1.4%	22	30.1%		
計	17	23.3%	38	52.1%	11	15.1%	7	9.6%	73			

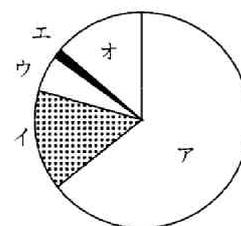
③ 課題発見のための体験的な活動について

体験的な学習は、「楽しい・ためになった (64.4%)」「もう一度やりたい (15.1%)」と約 8 割の生徒が好意的な回答をしている。また、「障害のある人や高齢者の苦勞が分かった」、「学校の水が汚くてショックだった等の新たな発見をしたり、もっとほかの実習も経験してみたい」との希望を記述する生徒もいた。

課題発見のために体験的な活動を取り入れたことについては、体験的な活動から課題を直接発見したという生徒もおり、体験的な活動をきっかけとして日常生活における健康問題等への視野を広げ、主体的に課題を把握しようとする姿勢が見られた。

Q 3 体験的な活動の感想

- ア 楽しい・ためになった……47人 (64.4%)
- イ もう一度やりたい……11人 (15.1%)
- ウ 人の苦勞が分かった…… 4人 (5.5%)
- エ 課題が見つげづらかった…… 1人 (1.4%)
- オ その他……10人 (13.7%)



グラフ6

④課題解決のための調査研究方法などの体験的な学習について

課題解決に向けた体験的な学習は、調査研究などの文献調べが中心となっているが、インターネットを活用した情報収集や実際に病院等を訪問して、インタビューをするなど工夫しているグループが多くいた。体験的な学習を行うことは、課題を自分のものとして受け止め、主体的な課題解決への意欲を引き出すことにつながったと考える。

また、生徒の興味・関心を高め、さらに進んだ調査研究を試みたいという意欲をもった生徒もいた。

⑤課題学習への取り組みについて

課題学習に「積極的に取り組めた」と回答した生徒が9.6%、「ある程度積極的に取り組めた」と回答した生徒が45.2%であった。また、ワークシートに、体験的な活動をきっかけに健康に関する興味・関心が高まったという感想を記入する生徒が多くいた。しかし、「興味があるが班員に頼った」「興味はわかず積極的になれない」と回答した生徒を合計すると43.9%であった。

⑥課題学習の感想と取り組みについて

表 4

Q 4 Q 1-ア	①自分から積極的に取り組めた		②ある程度積極的に取り組めた		③興味はあるが班員に頼ってしまった		④興味はあるが積極的になれない		⑤その他		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
課題がすぐに見つかった	7	9.6%	21	28.8%	19	26.0%	3	4.1%	1	1.4%	51	69.9%
課題がすぐに見つからなかった	0	0.0%	12	16.0%	9	12.0%	1	1.0%	0	0.0%	22	30.0%
計	7	9.6%	33	45.2%	28	38.4%	4	5.5%	1	1.4%	73	

課題学習の感想が、楽しいと回答しても授業への取り組みの姿勢が「積極的に授業に取り組んでいる」とは、必ずしもいえない。表4にあるように、楽しいという回答をした生徒にも班員に頼ってしまっている生徒が約半数いる。

また、「一斉授業の方がよい」と回答した生徒でも、積極的に授業に取り組めたと回答している生徒の方が多いことは注目すべき点である。

表 5

Q 4 Q 2	①自分から積極的に取り組めた		②ある程度積極的に取り組めた		③興味はあるが班員に頼ってしまった		④興味はあるが積極的になれない		⑤その他		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
楽しい	3	4.1%	5	6.8%	8	11.0%	1	1.4%	0	0.0%	17	23.3%
まあまあ楽しい	4	5.0%	18	25.0%	15	21.0%	1	1.0%	0	0.0%	38	52.0%
一斉授業の方がよい	0	0.0%	7	9.6%	3	4.1%	1	1.4%	0	0.0%	11	15.1%
どちらともいえない	0	0.0%	3	4.0%	2	3.0%	1	1.0%	1	1.0%	7	10.0%
計	7	9.6%	33	45.2%	28	38.4%	4	5.5%	1	1.4%	73	

7. 研究の成果と今後の課題

本研究では、生徒自ら課題を見付け、解決していく学習過程を通して、生徒が主体的に学習に取り組める工夫をした。また、生徒が意欲的に学習を進めるための教師の支援の方法を実践的に研究した結果、次のようなことを明らかにすることができた。

(1) 研究の成果

①「日常生活における健康」という単元を新たに設定したことについて

生徒は、新たな単元を学習したことで、普段の学校生活や家庭生活の中から、主体的に発見した健康に関する「課題」を自ら解き明かし、自らの力で調べたり、考えたりしながら主体的に学習へとつなげることができた。

②課題発見のきっかけとして体験的な活動を活用したことについて

課題学習に対する生徒の興味・関心が増し、主体的な課題発見・課題把握に結びつけることができた。この体験的な活動は、生徒自らが経験を通して新たな健康問題に気づき、課題への意識や学習意欲を高めることができた。

③学習段階に応じた学習シートやワークシートを工夫したことについて

学習シートやワークシートの作成を通して、生徒は、「個人」・「グループ」の学習の進め方に対する理解や課題把握における考え方・学び方、疑問点などについて、解決するための方法を見出すことができた。また、生徒相互の評価にも役立てることができた。

④個人の課題発見から、グループの課題把握へと学習形態を変化させたことについて

学習課題に対し、多様な見方があることを理解させるとともに、話し合うことにより、多くの選択肢からよりよい方策を探り、総合的に判断していこうとする生徒の意欲的な姿勢を引き出すことができた。

(2) 今後の課題

①調査研究活動における時間の確保ができるように、時間割の編成や課外活動の利用、長期休業期間を利用した外部施設訪問・実験等について工夫する。

②今回の課題学習をグループ研究としたため、その課題設定に必ずしも個人の見付けた課題が当てはまらない場合があるため、主体性を大切にする学習方法を工夫する。

③学習シートやワークシートを発展させ、ポートフォリオによる自己評価の在り方を工夫する。